夏越の祓・輪くぐり神事

菅生神社の輪くぐり神事は元禄の頃より茅の輪を設け、現在も古式にのっとり祭典を斎行しています。

輪くぐり神事の由来

菅生神社のご祭神、須佐之男命は古い伝えによりますと、須佐之男命が旅の途中で蘇民将来と巨旦将来という兄弟に宿を求められました。裕福な弟の巨旦将来は宿を拒んだのに対し、兄の蘇民将来は大変貧乏でしたけれども厚くもてなしました。

数年後須佐之男命は旅の帰る途中、蘇民将来にお礼をしたいと思い訪れ、「もし天下に悪疫が流行した時はちかやを以って輪を作り、これを腰に着ければ免れるであろう」と教えられ、蘇民一家はその年に流行した悪疫から免れました。

この故事に基づき、茅の輪を腰に着ければ災厄を免れるという信仰が生じました。江戸時代には輪はやがて大きくなり、現在のように境内に輪を設ける形になりました。茅の輪をくぐることにより病気や災難から逃れられるという信仰が現在も伝わっています。

申込希望の方

神社社務所又は神社係さんより形代の入った封筒をお渡しします。封筒に初穂料を添えてお申込下さい。　初穂料　５百円（お一人）

人形代（人の形に切った紙）は自身の身代わりです。人形代に半年のツミ・ケガレを下記の手順に移します

①人形代に氏名・年齢を記入します

②人形代を自身の頭・胸・腕もしくは身体不調の箇所を撫でます

③息を三回吹きかけます

④車の形代はナンバーを記入します

令和五年六月三十日（金）の流れ

●大祓式は午後五時より●
- 大祓式
- 切麻自祓い
- 祭員、参拝者ご一緒に茅の輪をくぐります

茅の輪は六月三十日より設置します
式典後よりご自由にお廻り下さい
※七月五日まで茅の輪を設けます

〇茅の輪をくぐる時の唱え言葉
水無月の　夏越の祓する人は
千歳の命　延ぶと云うなり
〇廻り方
左右左と３回八の字に廻ります

菅生神社（〇五六四-二三-二五〇六）